

参 考 资 料

参考 1 海域モニタリング分析法、検出下限値等一覧

海水試料

試料採取期間	海域	頻度	採取試料	採取量	試料採取機関	分析・測定方法	測定時間	分析供試量	対象核種		検出下限値(目標レベル)	分析機関
									I-131	Cs-134		
① 3月23日～27日(8地点) 3月28日～4月3日(10地点) 4月5日～4月21日(12地点) 4月25日～5月7日(16地点)	前面海域 (別紙1)	1日おき (3/24,25除く)	表層	20L	(独)海洋研究開発機構	前処理無し・ ゲルマニウム半導体検出器(2Lマリネリ容器、500mlポリ瓶)	600～3,600秒	500mL～2L	I-131	設定なし	(独)日本原子力研究開発機構	
									Cs-134	設定なし		
									Cs-137	設定なし		
									I-131	11(Ba/L)		
② 5月9日～7月31日 5月10日～7月12日	沖合海域 (別紙2) 外洋海域 (別紙2)	6回実施 (2回/月)	表層 中層(一部) 下層	5L 2L	(財)海洋生物環境研究所 (独)海洋研究開発機構 (独)水産総合研究センター 中央水産研究所採取試料含む	前処理無し・ ゲルマニウム半導体検出器(2Lマリネリ容器)	3,600秒 3,600秒	2L 2L	I-131 Cs-134 Cs-137	4(Ba/L) 6(Ba/L) 9(Ba/L) 4(Ba/L) 6(Ba/L) 9(Ba/L)	(財)九州環境管理協会 (株)環境総合テクノス	
③ 9月5日～2月20日予定 8月22日～12月2日	沖合海域 (別紙3) 外洋海域 (別紙3)	4回実施 (1回/1.5月) 2回実施 (1回/2.5月)	表層 中層(一部) 下層 表層 中層(100m、200m)	60L 30L	(財)海洋生物環境研究所 (独)海洋研究開発機構	AMP沈殿・ ゲルマニウム半導体検出器 二酸化マンガン沈殿・ ゲルマニウム半導体検出器 イオン交換法または発煙硝酸法・ ガスフローカウンター AMP沈殿・ ゲルマニウム半導体検出器 二酸化マンガン沈殿・ ゲルマニウム半導体検出器 イオン交換法または発煙硝酸法・ ガスフローカウンター	30,000～340,000秒 30,000～120,000秒 3,600～18,000秒 30,000～340,000秒 30,000～120,000秒 3,600～18,000秒	10～50L 50L 20～50L 4～30L 30L 20～30L	Cs-134 Cs-137 Mn-54 Co-60 Ce-144 Sr-90 Cs-134 Cs-137 Mn-54 Co-60 Ce-144 Sr-90	1(mBq/L) 1(mBq/L) 0.7(mBq/L) 0.7(mBq/L) 3(mBq/L) 0.9(mBq/L) 1(mBq/L) 1(mBq/L) 0.7(mBq/L) 0.7(mBq/L) 3(mBq/L) 0.9(mBq/L)	(財)九州環境管理協会 (株)環境総合テクノス	
④ 11月～3月	前面海域	2回/月	表層	30L	東京電力(株)	フェロシアン化ニッケル沈殿法・ ゲルマニウム半導体検出器	10,800秒	10L	Cs-134 Cs-137	25(mBq/L) 25(mBq/L)	(独)日本原子力研究開発機構	

海底土試料

試料採取期間	海域	頻度	採取試料	採取量	試料採取機関	分析・測定方法	測定時間	分析供試量	対象核種		検出下限値(目標レベル)	分析機関
									I-131	Cs-134		
② 5月9日～7月31日	沖合海域 (別紙2)	2回/月	表層土	約2kg	(財)海洋生物環境研究所	105℃約3日間乾燥後、2mm孔径のふるいかけ・ ゲルマニウム半導体検出器(2V容器・外径106φ) 上記の乾燥、ふるいかけた試料をシュウ酸塩法(1試料のみイオン交換法)・ ガスフローカウンター	50,000秒 100～500分	307～636g 50～100g	I-131 Cs-134 Cs-137 Sr-90	1(Ba/kg乾土) 1(Ba/kg乾土) 0.8(Ba/kg乾土) 0.8(Ba/kg乾土)・・・シュウ酸塩法 0.16(Ba/kg乾土)・・・イオン交換法	(独)日本原子力研究開発機構	
③ 9月5日～2月20日予定	沖合海域 (別紙3)	4回実施 (1回/1.5月)	表層土	約2.5kg	(財)海洋生物環境研究所	105℃約3日間乾燥後、2mm孔径のふるいかけ・ ゲルマニウム半導体検出器(2V容器・外径106φ) 上記の乾燥、ふるいかけた試料をシュウ酸塩法またはイオン交換法・ ガスフローカウンター	80,000秒 100～500分	173～636g 100g	Cs-134 Cs-137 Sr-89 Sr-90	0.6(Ba/kg乾土) 0.6(Ba/kg乾土) 0.7(Ba/kg乾土)・・・イオン交換法 0.2(Ba/kg乾土)・・・シュウ酸塩法 0.3(Ba/kg乾土)・・・イオン交換法	(独)日本原子力研究開発機構	
						上記の乾燥、ふるいかけた試料をイオン交換法・ シリコン半導体検出器	80,000秒 80,000秒	130g	Pu-238 Pu-239+240 Am-241 Cm-242 Cm-243+244	0.01(Ba/kg乾土) 0.01(Ba/kg乾土) 0.02(Ba/kg乾土) 0.009(Ba/kg乾土) 0.009(Ba/kg乾土)	(財)日本分析センター	
④ 9月～3月	前面海域・沿岸海域	全7+1回 (1回/月)	表層土	約2kg採取内 500g送付	東京電力(株)	湿土・ ゲルマニウム半導体検出器(U-8容器)	10,000秒	120g	I-131 Cs-134 Cs-137 Mn-54 Co-60 Ce-144	9.9～3100(Ba/kg湿土) 2.2～9.2(Ba/kg湿土) 1.6～9.0(Ba/kg湿土) 1.7～6.1(Ba/kg湿土) 1.8～4.0(Ba/kg湿土) 4.5～51(Ba/kg湿土)	(財)日本分析センター	

ダスト

試料採取期間	海域	頻度	採取試料	採取量	試料採取機関	分析・測定方法	測定時間	分析供試量	対象核種		検出下限値(目標レベル)	分析機関
									I-131	Cs-134		
① 3月23日～27日(8地点) 3月28日～4月3日(10地点) 4月5日～4月21日(12地点) 4月25日～5月7日(16地点)	前面海域 (別紙1)	1日おき (3/24,25除く)	浮遊じん、ヨウ素	1.4～3.0m ³	(独)海洋研究開発機構	前処理無し・ ゲルマニウム半導体検出器	600秒	1.4～3.0m ³	I-131	0.5(Ba/m ³)	(独)日本原子力研究開発機構	
									Cs-134	2(Ba/m ³)		
									Cs-137	3(Ba/m ³)		
									I-131	0.5(Ba/m ³)		
② 5月9日～7月31日(12ライン)	沖合海域 (別紙2)	2回/月	浮遊じん、ヨウ素	7.1～37.9m ³	(財)海洋生物環境研究所	前処理無し・ ゲルマニウム半導体検出器	1,000秒	1.9～3.0m ³	Cs-134 Cs-137	2(Ba/m ³) 3(Ba/m ³)	(財)日本分析センター	